

雷の子

カトリック町田教会
町田市の中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



ロザリオは社会を害する悪と戦うための霊的武器である。
(レオ13世)

「すでに」と「いまだ」の間で

助任司祭 小田 武直

私は何を隠そう、大の鉄道ファンです。鉄道好きは、車両を撮るのが好きな「撮り鉄」、乗るのが好きな「乗り鉄」、はたまた、車両の走る音や、駅のアナウンス音に興味が惹かれる「おと鉄」などなど、ジャンルが分かれますが、私はもっぱら「乗り鉄」です。路線図片手に、希望を膨らませ、車窓風景や旅情を堪能する、それが何より至福の時間です。

旅行に行つて、結局、一番楽しかったのは電車の中、ということも「乗り鉄」にはよくある話です。皆が極力、移動時間を短くしたいという中で、それを楽しむことができているのは、我ながらお得な趣味だなと思つています。

さて「乗り鉄」なので、走る電車に魅力を感じるのほもちろんながら、私の場合、電車が行き交う駅の情景、旅先の土地の風土など、その興味

は鉄道周辺の、広い範囲に及びます。その中でも、こよなく愛する駅というのがあり、それが西武秩父線の西の終着駅「西武秩父駅」です。

かつて若かりしとき、ほんの思いつきで、普段の通勤電車とは逆方向に針路を取り、辿り着いたのが西武秩父でした。都会の生活に疲れていた頃、西へ西へと進むごとに、車窓風景には緑が増し、心が休まる思いがしました。飯能を越えると、左右に山の迫る谷あいとなり、登りつめた先には、建設当時、私鉄最長の正丸トンネルが控えています。長大なトンネルを抜け切ると、不意に、山肌の削られた、異様な山容が現れてきます。この山が産する石灰を採るため、長いこと、身を削られてきた武甲山です。

武甲山に見下ろされながら、やがて列車は、盆地のわずかな平地にひしめく秩父の町へと辿り着きます。そう、ここは盆地なのです。関東平野とは山一つ隔てられて、何だかひと安心、という気持ちに不思議とさせられました。

駅前には、今でこそ空前の秩父ブームで、洒落た装いですが、十八年前当時は、静かで懐かしい雰囲気漂っていました。終着駅ということもあり、安住の地に辿り着いたよ

うな、ほっとした気持ちにさせられたのが、西武秩父との出会いの始まりでした。

ところで、この駅は西武秩父線では終着駅ですが、さらに奥まった先へと続く鉄路もあるのです。それが秩父の町を貫いて、「三峰口」まで続いている秩父鉄道です。武甲山の後方には、標高千二百米の三峰山があり、秩父の人たちは、日々この三峰山と向かい合つて暮らしているのです。西武秩父が終着駅と思いきや、さらに山中へと分け入る鉄路が続いている、そのことは、さらなるロマンをかき立てるものがありました。

始まりは辻説法

運営委員会 川嶋 美智子

昨今、旧統一教会の問題に関連して信者二世という言葉葉をよく見聞きする。

私は幼児洗礼、信者二世。正確には明治以来の四世だ。

最近、初代である曾祖父の入信の経緯が気になり、九十四歳の母に尋ねた。明治六年キリスト教解禁。外国人宣教師達が町のあちこちで辻説法をしていた。神田で古着商を営んでいた曾祖父は興味を持ち、度々話を聴くうち《この人達の言っていることは本当だ》と確信。ついに浅草教会にて洗礼を受けた。当時、

さて、私たちの時代は、キリストによって「すでに」救いが与えられ、さらに「いまだ」来ぬ終末に向かって、希望をつないでいるときに位置しています。それは遠足の初めのわくわくにも似て、すでに到達した喜びと、さらなる期待へと心開かれた、最良のときといえるかもしれません。洗礼を受けるはるか以前に、私が西武秩父で出会った安らぎは、このことを先取りするようなものだったと今では思えます。なぜなら神様は、移りゆく人生のあらゆる風景を通して、私たちを救いへと招いて下さるからです。

浅草教会ではパリ外国宣教会のリサラグ神父、フロジャック神父が活動。初めて教会を訪れた曾祖父は、日本家屋の堂内に病人、貧しい人達が沢山いて、宣教師達が世話をしている姿に感動した。結核患者の余りの多さに驚かれたフロジャック神父は、後にベタニアの家を開設。曾祖父は商売の傍ら「信仰を持ちなさい、カトリック教を信じ給え」と必ず説教。土地の名物男となり、新聞に掲載された。

二代目も、初代同様、厳格な信者。「初子は神に捧ぐ」

更されますが、これはもう少し時間がかかるようです。

信者の皆様の戸惑いを少なくするために、この「雷の子」が発行される頃になります。新しい「ミサの式次第」の勉強会を実施します。10月22日

土曜ミサ後、23日第1ミサ後、第2ミサ後、講師は林神父様にお願ひしています。30分程度です。皆同じ内容です。何れかにご参加下さい。また、高齢者向けに23日14時から、長寿感謝のミサ後に15分程度の説明会を林神父様に実施して頂きます。勉強会・説明会の両方とも、資料は林神父様作成の「ミサ式次第」を配布致します。これは、個人用として以後お使い下さい。

サンパウロ社から「キリストとわたしたちのミサ」(新式次第版)が発売されています。ご希望の方は、売店で若干数準備頂けるようなので、ご購入下さい。

案内の係をして思うこと

鈴木 亮作

教会で案内を担当して何年かになります。最近今までと違った思いを感じています。

案内係は教会業務グループに属し、受付や週報担当と同じグループで教会運営を支えています。役割は、ミサに参加される方々の案内誘導(入

口での案内・座席への誘導・献金の案内・着席整理・聖体拝領案内・退席案内など)が中心で、緊急時(災害時の避難誘導・急病者の対応等)の対応もあります。

案内係は、土曜のミサは廣田さんを中心に瀬田さんたちが担当しています。日曜日の朝ミサは香部屋の伊藤・平・藤沢さんたちが担当し、10時30分ミサは参加人数も多いことから14人が交代で担当しています。

ここでは日曜10時30分ミサについて触れます。ミサ参加者はコロナ以前は座席もほとんど埋まり、立席が必要など盛況で、忙しく案内をしていました。それがコロナになり座席の間隔をあける必要が生じ、また入場の制限が出て参加者が大きく減少し様変わりしました。このことで余裕をもつて案内ができるようになり、案内についていろいろと思うところがでてきました。それは案内として皆さんとかかわることに面白みを感じることになったことです。ミサに参加する方々と落ち着いてしっかりと挨拶ができ、ちよつとお声がけもできて、1週間毎に再会でき、特に元気に教会にいらっしゃる年配の方々とお会いすることがとても楽しく感じるように

なりました。今まであまり意識していなかった邂逅的な気持ちが出てきて、案内係として皆さんと向き合える余裕が十分にできたことから、今までと違った気持ちで臨むことができたことです。

これは案内係の役得ともいうべき楽しいことです。教会での出会いはとても大切なことです。そして元気に毎週顔合わせができることは大変喜ばしいことと思えます。この気持ちはこちらから参加者が多くなっても持ち続けたいことでもあります。

コロナが収まり座席制限がなくなり、大勢の方々が教会

に集える状況に復活しても出会うの大切さは変わりません。今コロナでミサ参加を自重している方も状況が解決してミサに参加できるようになり、そんな皆さんとお会いする日を心待ちにしております。

洗礼を受けるまでの道のり

大森 信一

皆様、私は今年22年4月に受洗しました大森と申します。岐阜県出身です。

私は、赤ちゃんの時に高熱が出たことで、耳が聞こえなくなりました。

私は、昔、プロテスタント系の教会に行く機会がありました。

特別寄稿

助祭叙階の恵みを受けて

東京教区助祭 富田 聡

町田教会の皆様、沢山のお祈りをありがとうございます。叙階の恵みを受けます。おかげさまで、叙階の恵みを受くことができました。これまでの道筋を思い起こすと、色々なことがありましたが、神様は全てを恵みに変えてくださいました。今、私の心は喜びで満たされています。

申請します。そこから得られた教訓が一つあります。ズバリ、司祭になるためには、良い司祭になるためには、死ぬまで現状に安住してはならないということです。助祭は、司祭になるための養成の途上ですが、司祭になっても良い司祭になるための養成は続きます！

大切な、説教の修練の時でした。コロナ禍にあつて、月に一回しかミサに来られない状況にあつた皆様に、自分は何を語るべきなのか、真剣に考える日々でした。皆さんの霊的な飢え渇きによって、私は育まれ、鍛えられました。まだ神学生の私に教話を任せて下さった林神父様にも、心より感謝

変化の激しい世の中です。教会もその例外ではなく、絶えざる刷新が問われています。私が皆様と共に歩むことのできる柔軟な心を持った良い司祭になつてゆけますように、今後ともどうぞお祈りください。また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

助祭叙階式



9月23日(金)菊地功大司教の司式のもとに助祭叙階式が執り行われ、町田教会にもなじみの深い富田聡および熊坂直樹両神学生が助祭に叙階された。



した。その後、カトリック教会に「試し」に行ってみようと思ひ、岐阜県内の教会に行き、その後、名古屋のカトリック港教会に行くようになり交流が深まりました。
私が、24歳の時に、一人旅行でイタリアのローマに行つたのですが、イタリア語が苦手なので、英語で筆談しながら、たぐさんの教会を巡礼し、たぐさんのカトリックの教えを知る事ができました。
その後、私は、27歳の時に仕事で上京して来ました。
私は、9年前に結婚して子どもがいます。妻が先に洗礼を受けていたので、妻から洗礼を受けたほうが良いと言われ、都内のカトリック教会を訪問したのですが、本格的に勉強したのは、この町田教会です。
勉強を始めた時は、手話でコミュニケーションが取れな

かつたので困りました。
私の横に手話通訳の方が付きつきりではない為、神父様に、カトリックの教えについて、ホワイトボードに書いて頂きながら、ひとつひとつ丁寧に説明して頂き、信仰を深めていきました。
始めは、カトリックの教えと、私の考え方や想いを比べて、違いがないか不安がありました。その不安だった事をひとつひとつ確認しながら、一致している事を確認できたので、不安が無くなり、さらに信仰が深まりました。
その結果、洗礼を受ける事を決心しました。
洗礼式の作法が、全く分からなくて心配になり、ユーチューブを観て参考にしながら調べたりもしました。
受洗後は、気持ちがとても落ち着くことができました。
私は、AED（心臓がけいれんした状態の時、電気ショックを与える医療機器）の使用方法を指導することができます。資格を持っています。
以前は、手話でAEDの使い方を教える機会が認められていなかったのですが、最近、ようやく手話で指導する活動が行えるようになりました。
今まで以上に活動する機会が増えてきたことに、神に感謝しております。

中高生会々練成会

8月21日～22日



コロナ感染予防のため宿泊を避け、初日の日程（ミサ、要理、昼食）を終えるところだった解散。2日目朝再び集合し、富士急ハイランドへ移動しました。

教会学校々夏期学校

9月24日



コロナ感染拡大と台風接近のため二転三転した夏期学校、結局「えのすい」（新江ノ島水族館）見学になり、イルカショーなどを楽しみました。

司祭交換の日（7月31日）



多摩南宣教協体の司祭交換の一環として、この日成城教会主任司祭の山本量太郎神父が当教会を訪問、ミサの司式と「新しいミサ式次第」に関する講話をおこなった。

信者動静

2022年7月～10月

（個人情報のため、削除しています）